

# 室生小だより 「桜梅桃李」

No.2

令和5年 4月25日(火)

(<http://www.murou-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

## 参観ありがとうございました

夏を思わせるような天気の中、また公私ともにお忙しい中、学習参観・学級懇談へのご参加ありがとうございました。昨年までの分散開催ではなく、久しぶりに一斉参観をすることができました。



1年生は、国語で「うたにあわせてあいうえお」の音読を、2年生は国語で「ふきのとう」の音読発表をしました。3年生は国語の「春のくらし」で生活の中の春を表す言葉を見つけました。4年生は算数で「折れ線グラフと表」の学習を、5年生は社会で「外国の国当てクイズ」をタブレットを使って親子で考えました。6年生は国語で「春をテーマにした詩」の発表会をしました。



1年生は初めての参観でしたが、どの学年の子も落ち着いて授業に取り組んでいました。

終了後には学級懇談も行われました。学年委員を引き受けて下さった方にはお世話をおかけしますが、どうぞよろしく申し上げます。



2年生の作品



6年生の作品

## ひらいてとじた 笑顔がふえた(子ども読書週間)

子どもを本好きにするには、どうしたらいいか— この問いに、「わたしの答えはいつもきまっています」と語るのは、東京子ども図書館名誉理事長の松岡享子氏です。

氏の答えは、『生活のなかに本があること』『おとなが本を読んでやること』の二つ。「うちのなかに本があり、親が本を読んでいる姿を見る。それが、子どもには、本への第一歩です。」と(『子どもと本』岩波新書)。

また、小説紹介クリエイターのけんごさんも、「(子どもに)読めという前に、自分が楽しく読んでいる姿を見せること」を推奨しています。



図書室前の本の紹介スペース

子どもに「本を読みなさい」と言うのは簡単です。しかし、親の姿以上に雄弁なものはありません。日頃から読書に親しむ姿を子どもに見せることが大切だと思います。そうすれば、子どもは自然に本と触れ合うようになると思います。

読書の喜びについて、ある先人は「一冊の良書は、偉大な教師に巡り会ったのと同じ」「自分の人生は一回きりだが、読書によって、何百、何千のほかの人生に触れることもできるし、二千年前の賢者と話もできる」と語っています。



上のタイトルは、今月23日から始まった「子どもの読書週間」の今年の標語です(5月12日まで)。来たる大型連休は、良書との出会いを期待しながら、親子で書店や 玄関前のチューリップ 図書館に足を運んでみませんか。

